

第5章 次へのステップとして

協働に向け、みんなで一歩ずつ進みましょう！

市民は、地域の課題と考えられることやそれらに関して**取組**んでいる内容(情報)をみんなで共有し、広く理解されるよう伝えることが大切です。

【地域内での取組】

伝えるためには、市民同士隣近所で話し合い(井戸端会議など)を行い、「みんなでやる」という連帯感とお互いさまの意識を持ち、共通の認識を深めていく機会を増やしていく必要があります。

そのことにより、個々の考えと理解が進み、目的を達成するための組織化や、それぞれの活動が地域の力として結集することとなります。

【地域外への発信】

さて、その課題は、**取組**んでいる地域のみ該当することでしょうか？

市内その他地域でも必要とされていることではないでしょうか？

その**取組**を広く市民に伝える必要があります。

市に伝えること(提案すること)、そして市民への伝達手段として市報やホームページを活用し、周知を図ることができます。また、平成20年度にCSO、いわゆる市民社会組織が集い、地域の課題解決に**取組**めるCSOの活動拠点として CSO市民活動センター「ようこそ」を整備しました。その「ようこそ」を活用することで、それぞれの情報を交換、発信できネットワーク化を促すことができます。

ようこそ！
情報は、
自ら進んで出向いて
つかみましょ。う。
自らの活動を話し合
いの場へ出向き伝えま
しょ。



「ようこそ」は、地域の窓口である公民館内にあるということで地域に根ざした老人会や婦人会といった地縁組織や社会教育団体などとの情報共有ができ、地域の諸課題解決に向け、連携した新たな**取組**に発展することが期待されます。

地域のたくさんの地縁組織同士が交流する場としての公民館は、これから時代に合った新たな視点を取り入れ、その活用を広げる必要があります。

「ようこそ」を活用することで 中間支援組織を介し、団体同士また市と団体との新たな出会いが始まります。

出会い 交流 活動の場として、お互いに協働について共通理解を進め、協働事業への第一歩を踏み出して行くこととなります。

拠点(西側より)



小城公民館全景

CSO市民活動センター「ようこそ」

所在地:小城市小城町176番地2 小城市小城公民館内

平成20年度佐賀県CSO活動拠点整備事業の補助で整備されたCSO及び中間支援組織の活動拠点です。

CSO同士が交流し、お互いの活動情報を得るとともに活動に関する相談を受けたり、自らの情報を発信できる、すべてのCSOが気軽に利用できる情報発信基地的役割を持つものです。

中間支援組織とは

地域に根づいた活動や課題解決を目指す活動などを行なうCSOが必要とする「資金を得るための情報や活動に際し必要な情報など」を紹介したり、個々の活動に応じた「助言」や「相談」など様々なCSO活動を多様な面から支援する民間の組織です。

市民協働の実現に向けて……。

認識しておくこと

市民一人ひとりがまちづくりを行なう権利をもっています。

市のみで考え、決定し、それが求められているニーズとしてサービスを一方的に提供する時代ではなく、市民もサービスを提供する側になれるのです。

考えること

自分たちが住んでいるまちだからこそ、自分たちの手で良くしようと**取組**む必要があります。

それぞれが参加意識を向上させ、明確な意思(地域の課題は地域で解決する)とそのことについて責任を自覚し、今まさに活動するときです。

具体的には…

まずは、地域を知る(課題も含め)ことから始め、小さなことでも気づいたことから始めましょう！

「声に出して伝え、行動していく」ことを念頭におきながら、更に伸ばすべきことや解決すべきことについて、多様な主体との協働で地域から盛上げていきましょう！



住民自治の確立

地域の運営は、その地域の住民の意思によって行われるべきという概念です。

小城市協働の進め方 「5 EYE(ファイブアイ)運動の展開」 ～ 5つの”あい”～

協働とは、お互いの信頼感(納得と共感)の上に成り立つものです。



これまで述べてきたことを踏まえ、市は、市民がつくる市民活動団体との両輪の“協働”により総合計画の基本目標である「和で織りなす美しい小城市」づくりを進めます。

1EYE

笑顔であいさつを交わしましょう。

2EYE

互いに認め(立場の違いを理解し)、あいましょう。

3EYE

互いに実施し、広めあいましょう。

4EYE

課題と成果を見つめ、あいましょう。

5EYE

みんなが住んでいる地域・小城市をあいましょう。